



学生アイデアソン「タテシナソン」を軸にした 関係人口創出事業を開始します

立科町ではこれまで、全国から集まった学生が町の事業者が抱える事業課題に挑戦する学生アイデアソン「タテシナソン」を実施してきており、町内事業者の新商品販売やサービスの向上といった成果が生まれています。

しかし、タテシナソン参加者と立科町との中長期的な関係人口の創出が課題となっていたことから、今回、人をつなげるワークプレイスプラットフォーム『TeamPlace』を運営する株式会社 AnyWhere（本社：東京都武蔵野市）と共に、タテシナソンを軸にした関係人口の創出を目指した事業を行うこととなりました。

今年度は、これまでのタテシナソン参加者や関係者を集めて「つながりの可視化」を行い、今後のビジョンや取組みを共創するイベントの実施を予定しています。

■□ 関係人口とは □■

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉。地域とつながりを持つ「関係人口」は地域づくりの担い手であり将来の移住者としても期待されており、地方にとって地域活性化、地方創生のために関係人口の増加が重要視されています。（参考：総務省ウェブサイト「関係人口ポータルサイト」）

■□ タテシナソンとは □■

バックグラウンドが異なる学生が全国各地から集まり、立科町にある実際の事業者の経営課題について、チームごとに町内を駆け巡り、28時間以内に課題解決のアイデアを提案するリアルガチの学生アイデアソンです。過去3回開催し、提案されたアイデアのいくつかは事業者によって実際に商品化やサービス化され、地域資源を活用した稼ぐ力の向上に結び付いています。

[参考：<https://tateshinathon.com/>]

■□ 今年度の予定 □■

（1）キックオフミーティング（オンライン）

日時：令和3年（2021年）12月10日（土）19:00～20:30

内容：事業内容の共有や参加者のつながり方をテーマにワークショップ形式で実施

（2）オフラインミーティング

日程：令和4年2月中旬

内容：キックオフミーティングを踏まえ、都内においてオフサイトミーティングを開催し、今後のコミュニティのテーマや運営方法について

立科町 企画課 地域振興係

（課長）竹重和明 （担当）上前知洋

電話 0267-88-7315（直通）FAX 0267-56-2310

E-mail: kikaku@town.tateshina.nagano.jp

TeamPlace×長野・立科町、関係人口を見える化するモデル事業開始 学生アイデアソン「タテシナソン」参加者につながるの場を提供

人でつながるワークプレイスプラットフォーム『TeamPlace』を運営する株式会社 AnyWhere（本社:東京都武蔵野市、代表取締役 CEO：斉藤晴久、以下、AnyWhere）は、長野県立科町と関係人口を見える化するモデル事業を行います。

第一弾として、TeamPlace を活用して学生アイデアソン「タテシナソン」の過去の参加者や関係者を可視化。ゆるやかなつながりを作り、関係人口の増加、地域活性化を目指します。



※ワークプレイスは：オフィスに限らず、人が仕事をしている場所そのものを表す概念で、人が時間や場所に限定されることなく、知識創造活動を行うあらゆる場のこと。（オフィス環境スタンダード 第4版）

■学生アイデアソンが好評！一方で関係人口創出に課題も

立科町では 2017 年度より、町内の事業者が抱える経営課題を解決する学生アイデアソン「タテシナソン」を開催してきました（※1）。2019 年度までの 3 年間で全国から学生のべ 55 人が参加。披露されたアイデアは実際に事業に取り入れられ売り上げアップにつながるなど、学生からも事業者からも好評のイベントです。

ところがイベント終了後に学生と立科町が、また学生同士が継続的なコミュニケーションが取りにくいなど、中長期的な関係づくりに課題を抱えていました。

地域とつながりを持つ「関係人口」は地域づくりの担い手であり、将来の移住者としても期待されており、地方にとって地域活性化、地方創生のために関係人口の増加が重要視されています。国土交通省の調査によると、18 歳以上の全人口の 2 割弱にあたる 1827 万人が特定の地域の関係人口となっており、関係人口の多い地域ほど三大都市圏からの移住が多い傾向があります（※2）。

そのため立科町では、タテシナソンの参加者に関係人口としてつながりを維持してもらう方策を検討してきました。

※1 アイデアソンとは：「アイデア」と「マラソン」を組み合わせた造語で、特定のテーマについて参加者が短い期間で自由にアイデアを出し合いアイデアを生み出すプログラムのこと。
※2 国土交通省「地域との関わりについてのアンケート 調査結果」

■「点を線に」、TeamPlace でタテシナソンのつながりを可視化するモデル事業を開始

そこで AnyWhere では立科町と協力して「TeamPlace」活用した関係人口を見える化するモデル事業を行うことになりました。最初の取り組みとして、タテシナソンの過去の参加学生を中心に立科町とのつながりや参加者同士のつながりを可視化します。

タテシナソン参加学生に TeamPlace 上でスキルや価値観などを登録してもらい、同じコミュニティに属する人を見える化し、ゆるやかなつながりを作ります。TeamPlace 上でイベントなどの情報告知も行います。

参加者にとっては、相手の属性がわかることで交流やコラボレーションのきっかけとなり、立科町にとっては、関係人口が創出できて今後の地域イベントへの参加や移住などが期待できます。タテシナソンを軸に立科町や参加者同士に有機的な繋がりを作り、これまで「点」だった関係を「線」にすることを目指します。

■関係人口が見える化するモデル事業、今後の予定

【キックオフミーティング（オンライン）】

日時：2021年12月10日（金）19:00-20:30

開催方法: オンライン（ZOOM 利用）

内容：立科町と Teamplace が取り組むプロジェクトの目指す未来をお話した後、タテシナソン参加者でつながりの可視化ワークショップを行います。

今後はタテシナソン参加者以外にも枠を広げ、TeamPlace を活用して全国に散らばる立科ファンを可視化し、関係人口の増加に努めていきます。

■タテシナソンとは？



全国各地から集まった学生が、立科町の事業者が抱える経営課題について調査し、徹底的に議論して生み出したアイデアを事業者にプレゼンテーションする学生アイデアソン。制限時間は 28 時間で、採用されたアイデアは事業化される。2017 年度から開催（20、21 年度は中止）。第 4 回「JLAA 地方創生アワード」最優秀賞受賞。

■TeamPlace とは

「人でつながる」ワークプレイスプラットフォーム。ワークプレイスの空間や関わる人を可視化し、人のつながりや新しいコラボレーションを生むきっかけを提供します。

<TeamPlace3 つの特徴>

Search：自分の価値観やニーズに応じて、働きたい場所やつながりたいユーザーを探せます

Connect：気になるワークプレイスやユーザーにつながるができます

Collaboration：そのつながりがユーザーにとっての **Team** となり、新しいコラボレーションが生まれるきっかけになります

Web サイト： <https://team-place.com/>

■株式会社 AnyWhere について

株式会社 AnyWhere は「世界中の誰もが、どこでも豊かに働き生きられる社会へ」のビジョンのもと、人でつながるワークプレイスプラットフォーム『TeamPlace』を運営しています。また法人の新規事業支援やシステム開発、スペースに関連する IT・システムコンサルティング事業を展開しています。

設立： 2020 年 1 月 7 日

代表者： 代表取締役 斉藤 晴久

本社所在地： 東京都武蔵野市

URL： <https://anywhere.co.jp>（コーポレートサイト）

■本リリースに関するご質問、取材申込み等のお問い合わせ先／パートナー募集

担当: 株式会社 AnyWhere 斉藤、吉田

メールアドレス: hello@anywhere.co.jp